

## エンジン

第7期生 白岩 沙也佳

小野ゼミは自分に合っていると思っていました。もともと仲間と何かを成し遂げるとか、勉強でもサークルでも、深夜になっても妥協しないで完成を目指すことなどが好きだったからです。が、甘かった。その甘さは角砂糖を入れすぎて中身が見えなくなったコーヒーに匹敵するでしょう。夜遅くまでやることは覚悟していましたが、朝日が見えるまでとは聞いてない。こんなに書式のチェックが厳しいなんて聞いてない。週8日ゼミがある（ような錯覚を抱く）なんて聞いてない——！！

それよりも聞いていなかったのは、小野ゼミ生の個性の強さです。特に、最も多くの時間を過ごした7期生。なんじゃこいつらは。本当に驚きました。感動するほど呆れることもあれば、萎縮するほど尊敬することもしばしば。一緒に過ごすほどに、「！」は大量生産されました。この「！」のせいで、何度苦しんだことか。何度泣いたことか。でも、この「！」のおかげで、何度笑ったことか。何度救われたことか。



個性豊かな7期生(著者は前列右端)

他のゼミでも、個性豊かな同期や先輩、後輩がいて、苦しんだり楽しんだり、いい思い出を作れたんじゃないか。3年までの自分は、そう思っていました。でも、卒業を間近に控えた今は、違います。小野ゼミだからこそ、これほど個性豊かな人が集まり、小野ゼミという環境だからこそ、皆の個性が、潜在的な個性まで遺憾なく発揮され、私を苦しめ楽しませた「！」が生まれたのだと思えます。この2年間、先生と、先輩と、同期と、後輩と、小野ゼミ

で苦しんだこと、小野ゼミで楽しんだこと。一日中グル学で過ごしたハタチの誕生日、毎週日曜日は徹夜の日、初酔の夏合宿、英論+白岩のグアム、KUBICで2徹、インゼミ半崩壊、商学会賞受賞を知った誰もいないグル学、チョコファウンテン、破廉恥なあだ名、渋谷会議、チゲ&アスカ、鍋パーティー（終ケース）…。たった2年間の経験が、この先何十年も、どんな人とでもやっつけようとする原動力になる気がする。たった2年間の経験が、この先何十年も、どんな辛いことでも乗り越えようとする原動力になる気がする。小野ゼミで得たものは、本当に本当にたくさんあるけれど、小野ゼミで得た一番大きなものは、これから生きる「エンジン」なんだと思います。小野ゼミの2年間で振り返って思うことを、そこはかたなく書きつくってしまいましたが、小野ゼミで泣き、笑ったことは、長い間、私のエンジンになると信じています。ちょっと気恥ずかしいですが、これが2年間のゼミ生活を振り返った正直な感想です。

最後に…小野先生、森岡さん、千葉さん、池谷さん、窪田さん、6期生の皆さん、8期生の皆、そして、7期生の皆！！「2年間！！本当にお世話になりました！！！」

感謝の気持ちで一杯です。本当に、本当に、ありがとうございました！！